

八尾市立病院改革プランの実施状況／平成21年度

資料 2

1. 診療体制及び診療内容の充実による収益確保

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等			
(1) 医師確保	・医師の採用	平成21/4/1現在の医師数 正職員66人 後期研修医13人 (内科・循環器科・化学療法科・産婦人科で増員を目指す)	・各大学医局への要請(継続) ・医師派遣会社と契約(継続)	・H21年4月1日現在 正職員 62人、嘱託12人(初期研修医を除く) ・H21年10月1日現在 正職員 62人、嘱託14人(初期研修医を除く) ・関係大学への訪問	・H21年4月1日の医師数は、計画の79人に対し74人となり、その後、退職も発生したが、新たな医師の確保に努めた結果、10月1日には76人となっている。 ・患者数増加のためには、特に内科を中心に医師を採用し、外来診療制限を無くして行くことが急務であり、引き続き、管理者はじめ幹部による大学への働きかけを行っていく。			
(2) 医師の労働環境及び勤務条件の改善	・院内保育所の設置・運営	・女性医師の保育ニーズの充足 ・利用者(医師)の勤務に対応した保育時間の確保	・6階東病棟に保育所設置 ・運営を専門業者に委託	・H21年10月現在、定員5人に対し入所児童3人 ・SPCを通じ保育事業者に運営委託を行なっている。	・運営費の赤字分は一般会計からの繰入対象であるが、費用対効果を考え、利用者数の増を図っていく。			
	・医師事務作業補助者の採用	・医師事務作業補助者数 5人	・効果を検証しながら、職員の募集を継続	・H21年4月⇒5人(嘱託1、臨職4) 医師事務作業補助体制加算を取得 ・H21年度当初目標は5人であったが、体制充実のため7月に募集。9月末現在6人(嘱託3、臨職3)	・退院サマリの作成等、事務作業の効率化に寄与しており、9月現在の退院サマリの作成率は、前年度88.9%から99.6%に向上した。 ・今後の増員については、医師事務作業補助体制加算の要件を考慮し、8人(許可病床に対し75:1から50対1)を目標とする。			
(3) 地域病院との医療連携の強化	・市内11病院との連携	・喫緊課題の解決に向けた協議の継続	・人事評価の具体的な実施方法の策定 ・業績を反映した手当の支給方法の確立	・ワーキンググループによる制度の検討 ①人事評価制度の構築 評価項目・評価方法・実施時期等 ②業績に対応した手当の支給方法	・H20年度に、医師を含めた院内のワーキング会議を設置した。H21年度は未実施。	・H20年度にワーキング会議で検討を開始したが、評価指標の設定、評価方法、財源等の課題解決に至っていない。年度内の開催に向け検討を進める。		
			・2ヵ月ごとに病院事務長会議において検討	・八尾市病院事務長会を定期開催 情報交換、消耗品の共同購入検討	・八尾市病院事務長会において、紙の共同購入が提案されたが、市の再生紙使用の方針があり不参加。引き続き検討する。			
(4) 診療科目の充実	・患者ニーズに対応した診療科目の設置	・患者ニーズに対応した診療科目の設置	・今後の医療ニーズに対応するとともに、採用する医師の専門分野等を考慮して検討	・H21年度は新たな診療科は設置していない。				
(5) 患者数を増やす取り組み (救急医療)	・救急取扱い患者数の増	・救急患者数 年間 20,893 件 ・うち救急搬送受入数 年間 3,345 件 ・うち入院数 年間 2,793 件	・断らない救急を目指し、ベッド確保(ベッドコントロール)を行う。	・H21年度上半期実績 (人)				・新型インフルエンザ流行に伴う発熱外来の設置により、救急患者数は5月に大きく増加したが、小児科については、8月、9月も患者数が増加しており、これらにより、救急患者数は対前年度で2,158人(21.6%)の大幅増となり、目標に対する進捗率は58.1%となった。 ・救急搬送件数は対前年度で139件の減、また入院患者数は、同81人の増となったが、進捗率はいずれも50%に達しなかった。救急医療は政策医療であり、市立病院が果たすべき役割の一つであるため、引き続き受入れ件数の増加を目指す。
				救急患者数	12,130	58.1	9,972	
(地域医療連携)	・紹介患者数の増	・初診紹介患者数 年間 11,601 件 ・紹介率 年間 47.8 % ・逆紹介率 年間 38.3 %	・医師会・医療機関への広報活動の充実 ・訪問活動の充実強化、医師による訪問活動 ・広報誌等の内容充実、配布圏拡大 ・当院の診療機能のPR(市民公開講座の開催、取材への協力等) ・院内外への紹介情報、診療実績の公表 ・診療機能の充実(紹介への確実な対応)	・H21年度上半期実績 (人)				・上半期は、発熱外来の初診患者が増加したことで、紹介率が低下する結果となった。紹介患者数についても、上半期は対前年度▲259人(▲4.6%)の減となった。 今後も小児等の救急患者が増加すれば、紹介率自体は伸びない可能性がある。 地域医療連携室による医療機関への訪問は頻繁に行われているが、医師を伴った訪問は減少している。 八尾市医師会からも、内科等の診療体制の充実、地域医療連携室の充実と紹介患者の迅速な受入れ体制の強化、症例検討会など、顔の見える交流の推進を求められており、症例検討会の充実、医師を伴った地域への訪問活動の拡大を図る。
				初診紹介患者数	5,408	46.6	5,667	
				・訪問活動の拡大 (回)				
				H21	H21-目標	H20	H21-H20	
				地域連携室訪問回数	242	▲ 5.6	47.6	▲ 5.4
				うち医師による訪問	11	1.6	40.5	▲ 0.6

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等																																																																																									
(稼働率向上)	・高度医療機器の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> CT 検査件数 年間 11,448 件 MRI 検査件数 年間 4,228 件 マンモグラフィ 検査件数 年間 2,640 件 超音波検査件数(総数) 年間 7,712 件 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医院等へのPR活動 現在使用されていない時間帯の有効利用、スタッフのスキルアップによる予約枠の拡大 土曜CTの院内・院外周知徹底、乳がん検診の充実 超音波等検査実施状況と検査枠に関する情報について院内への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の充実 「連携室だより」(月刊)、「診療のご案内」(年刊)の配布圏をJRおおさか東線沿線にも拡大した。 ・医療機能のPR 上半期の市民医療公開講座は新型インフルエンザを考慮し中止したが10月以降に実施。また、12月に、地域の医療機関との合同研究会を実施する。 ・市政だより活用 「市立病院からのお知らせ」(5、6、8月号に掲載) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌については、東大阪市内への配布にも力を入れており、同市からの紹介も増加した。また、広報課の協力により、紙面に余裕のない場合を除き、市政だより「市立病院からのお知らせ」を掲載している。 なお、市民医療公開講座の実施状況は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 10/3 「乳がんについて」 10/17 「よくわかる前立腺の病気」 10/24 「からだに“やさしい”手術について」 11/28 「あなたのメタボは大丈夫？」 1月に実施予定あり 																																																																																									
(6) 診療単価の向上	<ul style="list-style-type: none"> (手術) 手術件数の増、内視鏡手術の増 (DPC) DPCの検証、DPCに対応した検査の外来へのシフト 	<ul style="list-style-type: none"> 手術室において実施するもの 年間 3,279 件(月274件) うち全身麻酔手術 年間 1,716 件(月143件) うち腹腔鏡下手術 年間 86 件 包括部分の見直しによる収益単価の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介元医療機関へのPR 病院ホームページに診療科ごとの手術件数を掲載 市民医療公開講座において、内視鏡手術をPR(10月実施) DPCデータ分析システムを活用した分析及び情報提供 クリニカルパス整備と適用件数の増加 CT、MRI、その他検査について外来で実施可能なものは、外来において実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期実績 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT 検査件数</td> <td>6,066</td> <td>53.0</td> <td>5,403</td> <td>663</td> </tr> <tr> <td>MRI 検査件数</td> <td>2,013</td> <td>47.6</td> <td>1,988</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>マンモグラフィ</td> <td>1,266</td> <td>48.0</td> <td>1,015</td> <td>251</td> </tr> </tbody> </table> ・超音波検査 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超音波検査</td> <td>3,723</td> <td>48.3</td> <td>3,474</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>(腹部)</td> <td>1,924</td> <td></td> <td>1,618</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>(心臓)</td> <td>1,161</td> <td></td> <td>1,152</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>(その他)</td> <td>638</td> <td></td> <td>704</td> <td>▲ 66</td> </tr> </tbody> </table> ・手術件数 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>1,718</td> <td>52.4</td> <td>1,563</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>うち全身麻酔手術</td> <td>895</td> <td>52.2</td> <td>802</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>うち腹腔鏡下手術</td> <td>54</td> <td>62.8</td> <td>46</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> ・クリニカルパスの状況 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用件数</td> <td>1,153</td> <td>1,136</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> ・検査件数に占める入院検査件数の割合(%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT検査</td> <td>14.8</td> <td>14.5</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>MRI検査</td> <td>10.1</td> <td>10.9</td> <td>▲ 0.8</td> </tr> <tr> <td>超音波検査</td> <td>12.7</td> <td>16.0</td> <td>▲ 3.3</td> </tr> </tbody> </table> 		H21	進捗率(%)	H20	H21-H20	CT 検査件数	6,066	53.0	5,403	663	MRI 検査件数	2,013	47.6	1,988	25	マンモグラフィ	1,266	48.0	1,015	251		H21	進捗率(%)	H20	H21-H20	超音波検査	3,723	48.3	3,474	249	(腹部)	1,924		1,618	306	(心臓)	1,161		1,152	9	(その他)	638		704	▲ 66		H21	進捗率(%)	H20	H21-H20	手術件数	1,718	52.4	1,563	155	うち全身麻酔手術	895	52.2	802	93	うち腹腔鏡下手術	54	62.8	46	8		H21	H20	H21-H20	クリニカルパス適用件数	1,153	1,136	17		H21	H20	H21-H20	CT検査	14.8	14.5	0.3	MRI検査	10.1	10.9	▲ 0.8	超音波検査	12.7	16.0	▲ 3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数の増加に伴い、手術件数は、対前年度155件(9.9%)増となった。また、全身麻酔手術は、脳神経外科で皆減となったが、形成外科、泌尿器科、産婦人科等で増となった結果、対前年度93件(11.6%)の増加となり、いずれも目標に対する進捗率が50%を上回った。 ・腹腔鏡下手術は、対前年度で8件の増となったが、H20年度後半から件数増に取り組んでおり、H20年度は最終的に112件の実績があったため、これを超える件数を目指して取り組む。 ・DPCワーキングチームにより、引き続き現行の診療内容・請求内容のデータ分析を行い、診療科に対する情報提供と指導を行う。 ・院内クリニカルパスの患者さんへの適用実績は、対前年度で若干の増となった。 ・DPCでは、包括対象の検査等のうち、可能なものを外来で実施し、請求に反映させるよう取り組んでおり、外来診療単価の上昇という形で一定の成果を挙げている。
	H21	進捗率(%)	H20	H21-H20																																																																																										
CT 検査件数	6,066	53.0	5,403	663																																																																																										
MRI 検査件数	2,013	47.6	1,988	25																																																																																										
マンモグラフィ	1,266	48.0	1,015	251																																																																																										
	H21	進捗率(%)	H20	H21-H20																																																																																										
超音波検査	3,723	48.3	3,474	249																																																																																										
(腹部)	1,924		1,618	306																																																																																										
(心臓)	1,161		1,152	9																																																																																										
(その他)	638		704	▲ 66																																																																																										
	H21	進捗率(%)	H20	H21-H20																																																																																										
手術件数	1,718	52.4	1,563	155																																																																																										
うち全身麻酔手術	895	52.2	802	93																																																																																										
うち腹腔鏡下手術	54	62.8	46	8																																																																																										
	H21	H20	H21-H20																																																																																											
クリニカルパス適用件数	1,153	1,136	17																																																																																											
	H21	H20	H21-H20																																																																																											
CT検査	14.8	14.5	0.3																																																																																											
MRI検査	10.1	10.9	▲ 0.8																																																																																											
超音波検査	12.7	16.0	▲ 3.3																																																																																											
(7) 特色のある医療の実施	がん診療の充実	<ul style="list-style-type: none"> がん相談支援センター 年間 1,420 件 緩和ケアチーム活動件数 年間 45 件 (新規介入件数) 	<ul style="list-style-type: none"> 診療体制の充実 がん相談支援センター相談スタッフの配置 緩和ケアチームのスタッフ充実 医療機関、市民へのPR(がん相談支援センター、大阪府がん診療拠点病院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法科の設置(7月) ・八尾地域医療合同研究会の開催(12月実施) ・上半期実績 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談件数</td> <td>760</td> <td>53.5</td> <td>646</td> <td>114</td> </tr> </tbody> </table> ・緩和ケアチーム活動 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H20</th> <th>H21-H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規介入件数</td> <td>29</td> <td>64.4</td> <td>21</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> 		H21	進捗率(%)	H20	H21-H20	がん相談件数	760	53.5	646	114		H21	進捗率(%)	H20	H21-H20	新規介入件数	29	64.4	21	8	<ul style="list-style-type: none"> ・がん診療は、今後力を入れるべき重要な分野であるが、H21年7月に化学療法科の専門医を採用し、診療体制の充実を図った。 ・がん相談支援センターのH20年度の延べ相談件数は1,418件で、今年度も1,420件の相談を見込んだが、昨年度の実績を上回り、上半期で53.5%の進捗率となった。 ・緩和ケアチームによる活動件数も前年度と比較し増加している。また、4月から臨床心理士による有料の相談も実施しており、緩和ケア終了後の患者さんや、その他の悩みに対しカウンセリングを実施している。 																																																																					
	H21	進捗率(%)	H20	H21-H20																																																																																										
がん相談件数	760	53.5	646	114																																																																																										
	H21	進捗率(%)	H20	H21-H20																																																																																										
新規介入件数	29	64.4	21	8																																																																																										

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
	・周産期医療の充実	・分娩取扱い件数 年間 680 件 ・緊急母体搬送件数 年間 50 件 ・NICU稼働率の向上 年間 80 %	・分娩件数の増加 ・地域周産期母子医療センターとしてOGCS、NMCSシステムへの協力などの役割を果たす。 ・NICUの効率的運用	・上半期実績 (件) H21 進捗率(%) H20 H21-H20 分娩取扱い件数 355 52.2 308 47 緊急母体搬送件数 12 24.0 22 ▲10 (%) H21 H21-目標 H20 H21-H20 NICU病床利用率 88.4 8.4 75.0 13.4	・分娩件数は診療科の努力により目標を上回った。ただし、更なる件数増加のためには、医師の増員のみならず、外来診療スペースの拡大など施設整備が課題である。 ・NICUの病床利用率は目標の80%を大きく上回ったが、NICUの効率的運用のためには、入院が長期化する場合の対応として、GCU等の施設整備が将来的に必要である。
(8) 健診事業の充実	・人間ドック等実施件数の増	・人間ドック実施件数 年間 444 件	・現行の水曜日に加え月曜日の検診枠を新設 ・乳がん検診等、他の検診・健診の充実	・上半期実績 (件) H21 進捗率(%) H20 H21-H20 人間ドック 246 55.4 202 44 乳がん検診 525 345 180 子宮がん検診 314 226 88 特定健診 287 221 66	・人間ドックは、週2日の実施により、対前年度44件増となっており、進捗率は55.4%となった。引き続き件数増加に努めると共に、脳ドックについても検討を行う。 ・他の検診では、乳がん検診、子宮がん検診等が増となっている。特に、女性特有のがん検診推進事業の開始により、9月から件数が伸びており、年間ではさらに件数の増が見込まれる。
(9) 診療報酬への反映	・新たな施設基準・加算算定の条件整備	・請求漏れの防止 ・新たな加算の取得	・地域医療機関への文書発行におけるルールの確立(診療情報提供書) ・算定漏れ防止のためのオリエンテーション	・SPC、地域医療連携室、医療事務部門からの働きかけ(診療情報提供料、救急管理加算の件数増、入院時医学管理加算取得のための治癒率向上に向けた取り組み等) ・上半期実績 (件) H21 H20 H21-H20 救急医療管理加算 5,186 2,356 2,830 診療情報提供料 4,807 4,875 ▲68	・救急医療管理加算については、算定対象の見直し等により、H20年下半年から増加しているが、診療情報提供料についても、件数の増加に向け、今後、地域医療連携室の取り組みを強化する。 ・医療事務については、引き続き事務部門のスキルアップを図るとともに、加算を取得すべきもの、条件整備により取得の見込があるものは、医療現場への働きかけを強化する。
	・査定減の防止	・レセプト返戻・減点の減	・レセプト精度チェックシステムの稼働に向けた準備作業	・稼働に向けマスタ整理等準備中 レセプトの平均査定率⇒H20年度で0.24%	・レセプトチェックシステムについては早期に稼働を目指す。併せて、H22年4月の診療報酬改定や制度変更に対しても、迅速・的確に対応する。
(10) 未収金防止の取り組み	・未収金の督促・未収金発生防止策の実施	・医療収益に対する窓口未収金の減	・電話・文書による督促(継続実施) ・出産育児一時金の医療機関等への直接支払制度の活用・制度利用のPR	・上半期実績 上半期の督促件数⇒電話246件、文書93件 ・出産育児一時金の受取代理制度 上半期の利用件数⇒111件	・窓口対応、電話や文書による督促は、PFI事業者の定例業務として日常的に行っている。また、未収金防止と利便性向上のため、H20年度からクレジットカード決済を実施し、H21年度上半期で、約3,500件、1億4,000万円の実績があった。(窓口支払件数の3.5%、窓口支払金額の19.9%) ・出産育児一時金の直接支払制度は、本年10月から厚労省の実施要綱に基づき制度化されたため、積極的に活用していく。

※「実施状況」欄における「進捗率(%)」は、改革プランで設定した年間目標に対する上半期の実績の割合。「H21-目標」は、上半期の実績と改革プランの年間目標との差。「H20」は平成20年度上半期実績。
 ※「取組の評価・課題等」欄における「前年度」の実績は、特に注記が無い限り、前年度上半期の実績。

の実績と改革プランの年間目標との差。「H20」は平成20年度上半期実績。

2. コスト削減の取り組み

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
(1)給与費	給与費比率の抑制	・医療収益に対する職員給与費の割合 55.7%	・看護師について、臨時職員等の採用の推進 ・時間帯や各職場の需要に応じた人員の適正配置 ・医師特殊勤務手当の見直し、超過勤務の抑制 ・看護師の2交代制の検討	・上半期実績 (%) H21 H21-目標 H20 H21-H20 医療収益対職員給与費 53.0 ▲ 2.7 58.2 ▲ 5.2 H21.10.1 H20.10.1 H21-H20 全職員に占める定数外職員の割合 19.2 17.2 2.0	・上半期の給与費は、職員数が計画より少ないこと、また6月の期末勤勉手当が人事院勧告を受け減額されたこと等により、計画を下回った。 また、医療収益が増加したこともあり、医療収益に対する職員給与費の割合は、前年度より5.2ポイント、目標より2.7ポイント、それぞれ良化した。 給与費の見直しについては、医師の特殊勤務手当について見直し作業を進めている。
	・職員の計画的採用	・年間を通じ、7:1基準看護の条件をクリアする。(H20年6月取得)	・稼働人員確保、非常勤職員等の随時採用の宣伝(ホームページ、市政だより、ハローワーク等) ・職員採用試験の検討(試験内容、日程、年齢等) ・応援体制の強化	・看護師は、年度途中の退職により、10月1日現在では、計画を17名下回っている。嘱託等の確保に努めた結果、総数で8名の減となっているが、引き続き、院内の応援体制を維持し対応する。	
(2)材料費	・薬品・診療材料費の抑制	・医療収益に対する材料費の割合 19.9%	・共同購入品数の増 ・診療科の協力による価格交渉 ・材料費の市場価格調査 ・在庫管理、使用の適正化	・上半期実績 (%) H21 H21-目標 H20 H21-H20 医療収益対材料費 19.3 ▲ 0.6 20.6 ▲ 1.3 ・購入における取り組み(SPC) ・診療科の協力⇒人工関節・人工骨頭引下げ ・共同購入拡大、安価品への切替、値引きアップ ・価格調査はPFI事業検証のための調査業務で実施	・上半期の比率は、目標を0.6%下回る19.3%で、内訳は、薬品費が13.3%(前年度13.7%)、診療材料費が6.0%(同6.9%)となっている。 SPCと医療現場の協力により、医療安全にも配慮しながら、引き続き価格交渉や同種同効品への切替えに取り組む。 ・薬品・診療材料の購入価格については、PFI事業の検証のための調査分析業務の報告後に対応を検討する。
	・後発医薬品の積極的採用によるコスト削減	・採用率(品目数) 9.5% ・使用率(出庫額) 10.5%	・薬剤部から医師への働きかけを継続 (新発品の値引率の向上と後発品による費用抑制のメリットの双方を考慮しながら進める)	・上半期実績 (%) H21 H21-目標 H20 H21-H20 採用率 11.2 1.7 9.6 1.6 使用率 7.6 ▲ 2.9 5.4 2.2 (薬品のうち、血液、麻薬、RI薬品を除いた)	・薬剤部からの働きかけと医師の協力により、採用率、使用率は向上しているが、抗がん剤、造影剤の分野などで進んでおらず、使用率は目標に達していない。これらの薬品と経口薬の切り替えについて、引き続き現場と協議を行う。
(3)PFI事業の検証	・市立病院PFI事業検証のための実態調査・分析	・調査・分析業務実施、調査報告書の提出 ・業務見直しの検討	・委託事業者の決定 ①類似病院における、同種事業のサービス内容、公民との業務分担、費用等の調査 ②同種事業を従来方式で実施した場合の委託費用調査 ③材料費の市場価格調査 ④調査結果をもとに、当院PFI事業のサービス水準と費用の適正性を分析評価	・病院PFI事業に関するコンサルティング業務を実施した事業者を対象に委託先を選定。 事業者：アイテック株式会社 期間：7/7～12/28	・9月までに、当院のPFI事業に関するヒアリングにより事業の内容を把握。10月以降、類似病院調査等を実施中。 ・検証結果に基づき、当院の実情に即した業務水準の検討、及び費用の見直しについてSPCと協議を進める。(平成22年度)
(4)その他の経費等	・光熱水費の節減	・電気・ガス・水道の使用量の減(前年度以下)	・未使用時間が多い部屋の空調を点検(個別対応可能な部屋) ・職員や患者さんに協力を呼びかけ(院内LAN、ステッカー貼付など)	・空調の運転時間の再検討と院内協議 (H20年度⇒手術室、H21年度⇒物流センター等) ・院内各所に節電・節水への協力呼びかけのステッカー貼付 ・電子カルテシステムに電気・ガス・水道使用量と費用のデータを掲載し節約を呼びかけ ・点灯時間見直し、電球交換、コ・ジェネ運転見直しなどを実施	・新病院開院以来見直しを続けている。空調については、施設の構造上、部屋ごとに個別の対応が出来ない場所が多いが、個別に対応できる場所については現場と協議を行っている。 その他、省エネ・省資源化として、ペーパーレス会議の一部実施や、太陽光発電装置の設置工事を行なっている。 ★上半期の使用量及び金額 ()は前年度比 電気 3,509千kwh(▲8.5%) 42,926千円(▲6.4%) ガス 812千m3(▲5.1%) 48,994千円(▲16.1%) 水道 65千m3(▲2.8%) 35,252千円(▲1.3%)
	・検査の標準化など、治療・検査の見直し	・検体検査委託料の抑制	・セット検査の発注項目数を調査し、個別に協議	・調査データに基づき個別に協議(継続実施) ・患者1人当たりの生化学検査(I)実施項目数 (件) H21 H20 H21-H20 入院 3.27 3.33 ▲ 0.06 外来 3.55 3.81 ▲ 0.26	・一定の項目数以上に検査を行っても診療報酬に反映されない生化学検査(I)等については、検査オーダーの精査を依頼しており、定期的な調査と指導を継続する。

※「実施状況」欄における「H21-目標」は、上半期の実績と改革プランの年間目標との差。また、「H20」は平成20年度上半期実績。

※「取り組みの評価・課題等」における「前年度」の実績は、特に注記が無い限り、前年度上半期の実績。

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
(5) 医療機器等の整備	・医療機器の計画的な整備	・必要性、導入効果等を勘案し、計画的に購入	・医療機器整備委員会において、診療上の必要性、収益の見込み等を踏まえ、対象機器を選定する。 また整備に当たっては、繰入金のほか、補助金、企業債を効果的に活用する。	・H21年度⇒当初予算の資産購入費は260,466千円 ・6月補正予算で、MRI購入費として130,000千円を追加し、事業費は390,466千円となった。	・機器購入にあたっては、一般会計からの繰入(1/2)が行われるが、繰入金の予算は、病院の計画を基に財政課との折衝を経て決定されるため、毎年の事業計画は繰入金に合わせたものとなる。
	・総合医療情報システムの更新時期の見直し	・機器の一部更新(H21) ・システム更新(H23)	・H23年度の医療情報システムの更新に向け、ハードウェアを含め、価格と信頼性を考慮し検討する。	・平成21年度当初計画の端末の更新については執行を留保し、H23年度予定のシステムの更新と一体として検討することとした。	・引き続き、院内の情報システム管理委員会を中心に検討する。
(6) 施設の整備	・診療局増設工事	・医師10名分の執務室確保	・4階医局の拡張工事 ・21年度⇒当初予算の工事費30,000千円	・施工に向け関係機関と調整中	・今年度中に施工予定

3. その他の取り組み

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
(1) 医療安全対策	・医療安全に向けた継続的取り組みの計画と実践	・院内巡視活動の充実 ・職員への周知・啓発のための定期的な活動	・院内セーフティラウンドの実施(6月～2月、計18回) ・医療安全講演会(年2回) ・院内の標語掲示(月1回) ・医療安全全国共同行動への参加 ・医療安全推進マニュアル改訂版の発行	・院内ラウンドは6月以降、毎月2回実施 ・7月14日 医療安全講演会を開催 ・標語は毎月電子カルテシステムに掲載 ・共同行動については、H21年度の目標を「危険薬の誤投与防止」とし、偶数月に活動状況報告 ・H22年3月を目途に医療安全推進マニュアルの改訂作業中	・計画に従い進んでおり、継続して取り組む。
(2) 医療情報・経営情報の公表	・経営情報の病院ホームページへの掲載	・医療・経営情報のホームページへの掲載	・平成20年度収支、患者数、取扱い疾患等のデータ等をホームページに掲載	・ホームページに掲載(11月)	・掲載内容の充実(市民にとってより関心のある情報の掲載)に向け検討。
(3) 患者さんの声の反映	・患者アンケート(全般)の実施・公表	・アンケートのホームページへの掲載	・患者満足度向上に向け毎年度実施するアンケート結果を院内の電子カルテシステムに掲載するとともに、ホームページに掲載	・ホームページに掲載(10月)	・アンケート項目を検討しながら引き続き実施する。
	・接遇の向上	・マニュアル改訂版の発行	・接遇マニュアルの改訂 ・接遇向上に向け、職員対象に研修会を実施	・接遇マニュアルは6月に改定済 ・研修会 「患者にわかりやすい病院用語」(4月11日)	・計画に従い進んでおり、継続して取り組む。
(4) PFI事業者の経営支援機能の強化	・医業収支分析システム	・継続実施	・評価指標として活用可能な実績データの提示	・SPCにより、毎月の収益・費用データを入力(継続実施)	・毎年度、診療科ヒアリングの際の評価や目標設定などの基礎資料として活用しているが、業績評価に活用するため、診療科ごとの経費面での妥当な分析・評価方法についてさらに検討を加える。
(5) TQM活動の推進	・TQM活動による職場の活性化、職員の意識改革	・職場・職種を超えたTQMグループの結成と活動	・研修会の実施、グループ登録、活動発表会	・6/14 研修会 ・登録グループ⇒20グループ	・20グループが登録され、医療の質の向上、医療安全、患者サービス向上、収益向上、コスト削減などの分野で活動している。(H22年2月20日に発表会開催予定)
(6) 病院機能評価の更新	・病院機能評価の受検(バージョンアップ)	・認定の更新(当初H15/8) Ver4⇒ver.6	・受検に向けた、各部門の準備作業と受検	・バージョン6の認定に向け取り組み、7月22日～24日に受検	・当院の医療機能が低い水準を維持しているという評価を示すことは、職員の意欲向上、優秀なスタッフの確保にも資すると思われるが、各部署の努力で、より高いバージョンの評価を受検することができた。(結果はH22年1月の予定)

4. 改革プランの点検・評価

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
改革プランの点検・評価	・「八尾市立病院改革プラン評価委員会」の開催	・年1回以上 (H21年度は1回)	・H21年12月の八尾市立病院改革プラン評価委員会の開催に向け、外部委員の選任と要請	・12月1日実施 ・内容⇒上半期の業務状況及び改革プラン実施状況の評価	・H22年度、及びH23年度については、年2回(上半期決算、及び年度の決算確定後)評価委員会を開催する。